

藍・ラブユー！

～藍で栄えたまち美馬を追う～

梶浦真子

美馬市立図書館

宮田諭志

成城学園初等学校

吉田浩和

水戸市立図書館

佐藤優香

東京大学大学院情報学環

小熊真奈美

富岡町立富岡第二小学校

田畑理恵

都留文科大学

四国名勝図絵 阿波之部から問いを生む



資料を見て
気づいたことや
考えたことを
出し合おう

餅をついて正月の準備を
しているのではないかな

俵の中には何が入っているんだろう

”きね”の先が黒くなっているよ

莫産の上に並べられているのは、
どうみても餅には見えないな

左上に”藍”って書いてあるけど、
作っているものに関係があるのかな

藍で栄える ～今も残るうだつの町並み～

諺「うだつが上がらない」

うだつ(卯建)とは

「江戸時代の民家で、建物の両側に「卯」字形に張り出した小屋根付きの袖壁。長屋建ての戸ごとの境にもうけたものもあり、装飾と防火を兼ねる。」(広辞苑 第六版)

うだつの役割が「**防火壁**」から「商人の富の象徴」に変化。

軒にピタリとくっついているものほど古く(江戸時代)、軒から離れ、装飾が派手になるほど新しいといわれる。

[美馬市 観光情報 | うだつの町並み \(mima.lg.jp\)](http://mima.lg.jp)



藍で栄える ～吉野川のめぐみ～

吉野川の水運

江戸時代から明治時代は鉄道もなく、吉野川の水運は重要な流通手段でした。その流通の拠点となったのが流域各地の船着き場「川湊(かわみなと)」で、美馬市の脇町もその一つです。脇町は日本有数の藍産地の中に立地し、また上流と下流の湊(みなと)や街を川舟で結ぶ集積港として栄えました。

引用元<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/kankouannai/miru/0002.html>



参照
<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/kankouannai/shiru/yosinogawaaiudatsu.html>



吉野川によってもたらされる肥沃な土壌

吉野川周辺地域は台風が来るたびに洪水を繰り返すため、稲作が難しい土地でした。

そこで、氾濫によって育まれた肥沃な土壌を活かし、台風が襲来する前に収穫できる「藍」(タデ科の一年草)の生産がさかんに行われました。

引用元<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/kankouannai/shiru/yosinogawaaiudatsu.html>

藍で栄える ～吉野川と洪水遺産～

吉野川の洪水

三兄弟の異名を持つ日本の三大暴れ川
「坂東太郎(利根川)」「筑紫次郎(筑後川)」「**四国三郎(吉野川)**」

うだつの町並みから潜水橋を渡った対岸にある吉野川とその支流である明連川に挟まれた川の中島。ここは、川の中島という地形特性のため、頻繁な洪水被害をうけていた。そのため、島の各所には様々な洪水遺産がのこる。

島の周囲には、洪水時の水流を弱めるための水害防備竹林が囲み、各住居は、階段状に基礎の石垣を非常に高くし洪水に備えていた。また、地蔵や墓なども洪水被害にあわないように基礎を高くしている。

引用元<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/bunka/sonotabunka/0002.html>



今も残るうだつの町並み

[脇町の民家について \(bunmori.tokushima.jp\)](http://bunmori.tokushima.jp)

■ [船と小野浜の今昔 \(bunmori.tokushima.jp\)](http://bunmori.tokushima.jp)

吉野川のめぐみ・洪水遺産

[映像科学館http://www.kagakueizo.org/create/other/4924/](http://www.kagakueizo.org/create/other/4924/)

舞中島地区の文化的景観～洪水とともに生きた風景

～<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/bunka/sonotabunka/files/mainakasima2.pdf>

舞中島地区の文化的景観～洪水とともに生きる～

<https://www.city.mima.lg.jp/kankou/bunka/sonotabunka/files/mainakasima.pdf>

『四国三郎物語 吉野川の洪水遺跡を訪ねて』建設省徳島工事事務所/編者(建設省徳島工事事務所)